

## 《講演》

第6回 東京裁判研究会  
「米国人弁護士から見た  
戦後日本と日本人の精神  
— GHQ の呪縛の解き方 —」

講演者：ケント・ギルバート  
(米カリフォルニア州弁護士)

期 日：10月15日（土）

[編] 極東国際軍事裁判研究プロジェクト

**篠原**：本日は、ケント・ギルバート氏の講演会を兼ねて、第6回「東京裁判」研究会を開催します。

早速、講師のケント・ギルバート氏をご紹介します。今日の論題は、「米国人弁護士から見た戦後日本と日本人の精神、副題がGHQの呪縛の解き方」です。簡単に略歴等をご紹介します。ケント・ギルバート氏はアメリカのカリフォルニア州の弁護士、そして、タレント活動もしておられます。1952年にアメリカのアイダホ州の生まれ、ユタ州で育ち、1971年にアメリカのブリガムヤング大学在学中に19歳で初来日しました。1975年に沖縄国際海洋博覧祭の際にアメリカ館のガイドとして再来日しました。

1980年に大学院を卒業し、法務博士号と経営学修士号、そして、カリフォルニア州弁護士資格を取得しました。東京の国際法律事務所にて法律コンサルタントとして就職され、1983年に大橋巨泉さんのテレビ番組『世界まるごとハウマッチ』にレギュラー出演をして一躍人気になられて活動をしました。近年は企業経営や講演、そして、執筆活動を行って活躍しています。

今日の論題に関係するギルバート氏の4冊の本があります。『まだGHQの洗脳に縛られている日本人』、『やっと自虐史観のアホらしさに気付いた日本人』、『いよいよ歴史戦のカラクリを発信する日本人』（以上、PHP研究所）、最近では『日本覚醒——そろそろ自虐はやめて目覚めませんか？』（宝島社）という4つの著作です。

本日は本学の学長もいらしていますので、一言お願いしたいと思います。

**佐藤**：皆さま、こんにちは。あいさつに先立ちまして、過日、崩御されました三笠宮崇仁殿下のご冥福をお祈りしたいと思います。

さて、国士館大学は来年、創立100周年を迎えます。この講演も100周年プロジェクトの一環として行われます。皆さん、ここ国士館大学の地上10階、地下1階の34号館はいかがですか。昔のイメージを持たれる方々にとっては、国士館はどうなってしまったのかという感じだと思います。

世田谷の校舎には塀が1つ也没有ないので、日中でも子どもたちが行き来しています。私たちが学生のときの国士館大学を考えただけでも、想像を絶する世界だと思います。

しかし、大事なことは、われわれは私学ですので建学の理念と精神があります。99年前に創立者が、いかに国士館大学を創立したのか、国士館大学の社会的役割は何なのか、今こそもう一度、初心に返って考え直さなければいけないことだと思います。

国を思い、人のために、世のために尽くせる人材を輩出する、すなわち公德心あふれる国土を輩出することが国士館大学の最大の教育理念です。その意味で皆さまもご承知のことと思いますけれども、9月26日の安倍総理所信演説のときに、昼夜を問わず国のために尽くしている海上保安庁、それから、警察官、自衛隊に対して敬意を表しましょうとありました。

自民党の議員は起立をして拍手を送り、民進党をはじめ野党の方々は異様な光景だと言いました。世界で戦う中で身の危険を顧みず、国のために尽くし、それを国民の最高機関である国会が何ら顧みない、これこそ異様な光景だと私は思うのです。今、ケント・ギルバートさんからありますけれども、

それもこれも極東国際軍事裁判が原因していることと思いますし、これが一番究明すべきことと考えます。

同時にこのことは国士館大学の建学の精神ならびに教育理念に、もう一度、光を当てる絶好の機会だと考えています。ケント・ギルバートさんについては、篠原先生からありましたように、私も『世界まるごとハウマッチ』以来の大ファンです。

ギルバート：若い人は知らないです。

佐藤：知らないですね。83年でしたか。

ギルバート：83年6月23日です。

佐藤：すごいですね。でも、私はそれよりも最近の著書で、ケントさんの、特に日本の戦中・戦後の歴史に対する造詣の深さに感心しています。恐らく本プロジェクトに一番ふさわしい有識者と考えています。100周年記念では15のプロジェクトがありますけれども、東京裁判研究会のプロジェクトが、私は本学の一番核心だろうと考えています。

今日の講演を大いに期待しましょう。それではケント・ギルバート先生、よろしく願いいたします。

篠原：ありがとうございます。お忙しいので途中退席されるかもしれませんが、会場で聞いていただくことになると思います。

早速ですが、ケント・ギルバートさんによる講演を開始させていただきます。

ギルバート：皆さん、こんにちは。国士館大学は昔から知っていますが、中に足を踏み入れたのは今日が初めてです。ちょうど学園祭でパワーを感じます。そのようなときに皆さんが真面目な話を聞きに来てくださることは驚きです。本来なら中庭のステージでやっている踊りを見たいですね。

それでは、今日は「米国人弁護士から見た戦後日本と日本人の精神」について話をします。これについて一言、最初に言っておきますが、第二次世界大戦のことを日本では大東亜戦争と呼んでいました。今は太平洋戦争とっていますが、日本はその戦争に負けました。それについて反省の研究がもの

すごくあります。

戦時中に関する反省を私も結構、勉強してきましたが、最近、私が考えたのは、戦争を反省する時代はもう終わったのではないかということです。むしろ、戦後の日本を反省する、あるいは見つめ直す時代になったのではないかと私は思います。東京裁判も戦後の出来事の一つですから、今回のお話があったときに喜んで引き受けさせていただきました。

日本についてどのように思うかとしょっちゅう聞かれますが、私から見て日本が面白いと思う点が1つあります。日本人は自分の祖国について、あきれるほど何も知りません。アメリカ合衆国やフランスの建国史は知っていても、日本の建国の歴史は知りません。それは簡単な理由です。戦後に教えなくなったからです。

面白い動画を見ていただきたいと思います。これは何かというと、歴代天皇のときに世界中がどのようになっていたかというものです。これをよく見ると、最初のころの日本は九州と広島ぐらいまでしかありません。そして少しずつ東へ、北へと広がりますが、世界はもっと劇的に変わっていきます。

ここがローマ帝国で、エジプトからイギリスまで広大なものです。これが中国大陸で、秦が最初の統一王朝だったのですがすぐに倒されます。分裂していた時期もあります。中国について注目していただきたいのは、国名がころころ変わっています。何が中国 4000 年の歴史ですか。嘘はやめなさい。

ここがフランク王国ですが、フランスはイギリスを 400 年ぐらい支配しました。ギルバートという名前はイギリスの名前ですが、恐らくフランスからきたものです。自分の系図を調べてみましたが、1400 年頃までしか辿れませんでした。イギリスがフランス領になっていたのはその前ですから、調べられませんでした。

それから、南アメリカのワリやティワナクはよく分かりませんが、かなり長い期間存在したようです。この青い色はイスラムの勢力ですが、スペインまでずっと伸びていきます。一方の日本はというと、関東地方まで伸びました。中国は小さくなってまた消えます。

この辺は神聖ローマ帝国や何とかローマ帝国があり、ヨーロッパの歴史の本を読んでみましたが、訳が分からなくて眠ってしまいました。この辺から日本は、本州が全部勢力圏に入ってしまった。

ここでモンゴルが出てきます。ものすごく巨大な国になった後、初代が亡くなったので、息子たちの時代には分裂してしまいました。そして、モンゴル人が支配した中国は元という国になりました。元は鎌倉時代の日本を攻めましたが、神風が吹いて助かりました。メキシコに有名なアステカができた直後に、世の中がおかしくなり始めます。

15世紀の南米にインカ帝国ができました。この頃からが植民地時代の始まりで、スペインとポルトガルが全世界に出掛けて植民地をつくり始めました。一時期、全世界の85%が植民地だったと言う人もいます。

その時代にロシアも伸びてすごく大きくなり、アメリカ大陸の一部も支配しました。アラスカだけでなくカリフォルニアの一部まで伸びました。サンフランシスコの少し北にロシア川がありますが、アメリカがお金で買い戻しました。この辺からは動きが早いです。明治天皇、大正天皇、昭和天皇、そして、今上天皇です。日本はどのようになったかという、そのままです。

今回、わざわざこの動画を見ていただいたのには理由があります。それは日本の歴史と伝統がどれだけ長いものかということをもう一度、意識していただきたかったからです。ちなみに、この動画はこのサイト (<http://tncs.world.coocan.jp/TENNOWH.html>) からお借りしました。

BGMに使った「君が代」ですが、「千代に八千代に、さざれ石の巖となりて、こけのむすまで」と万葉集に出ています。意味がいろいろと議論されています。「君」が天皇陛下だと言う人がいて、戦後はこれがあまりふさわしくないのではないかとする人もいました。後でその話をします。

では、歴史の古い国のランキングを見てみましょう。FBIが毎年発行する「ワールド・ファクトブック」によると、エジプトが世界最古の国ですが、紀元前に滅びます。そして次が日本です。日本は建国以来、一度も滅んだことがありません。ですから実質は日本が一番古い国だと言えます。その次が

大昔はアケメネス朝ペルシャだったイラン。これも途中で滅びます。4番目の中国は王朝交代ばかりです。つまり何度も何度も滅んでいます。私の祖国のアメリカ合衆国は1776年にイギリスから独立しましたから、そんなに古い国ではありません。

ここで日本人が知るべき祖国の真実が幾つかあります。まずは、世界の中で日本だけが、はるか昔から現在に至るまで、ずっと日本であり続けたということです。これは忘れてはいけない大事なポイントです。私たちは日々の中で、そのようなことを意識しませんが、日本人にとって非常に大きな支えになる、誇るべき事実だと思います。

もう一つは、125代にわたる天皇の存在です。日本国の支柱や国体護持とは、皇室制度、いわゆる天皇制を守ることです。第二次世界大戦があったとき、日本は天皇を中心にした独裁国家で、国民は天皇を神様として崇拜し、日本軍は天皇のために戦っていると、連合国の西洋人は思い込みました。日本は西洋人にまったく理解されていませんでした。

ですから戦争が終わったときに、天皇制をやめるとほとんどの連合国は言いましたし、アメリカ国務省もそのように考える人が大半でした。天皇制をやめるだけではなく、昭和天皇を処刑すべきと言っていましたが、そのようなことをしたら占領政策が絶対にうまくいかないことを、トルーマン大統領とマッカーサー元帥というキーマンが理解していたことは、不幸中の幸いでした。

東京裁判では、天皇陛下を裁判の対象にしたいという連合国もありましたが、こんなに歴史と伝統が長い国で、そのようなことをやったら収集がつかなくなります。絶対に駄目です。日本の国歌である君が代の「君」が天皇陛下という意味であったとしても、その何が悪いのか、私にはさっぱり分かりません。

イギリスの国歌が何という題名か知っていますか？ “God Save the Queen”，神様が女王様を守ってくれるという歌です。ひたすら英国女王を讃える歌です。ですから、君が代がたとえ天皇を讃える歌であったとして

も、何が悪いのか分かりません。

他の国の国歌を見ると、例えば、アメリカは「星条旗」という歌ですが、一晩中、アメリカ海軍がイギリスと戦っていたのを見ていた人が朝起きてみると、アメリカの船の帆に星条旗がまだあった、まだ負けていないと、そのときのことを歌っています。アメリカの国歌は、戦争そのものがテーマなのです。

実は星条旗はよく調べると、4番まで歌詞があります。2番か、3番かは忘れましたが、イギリスをひどく侮辱する内容です。私はたまたま4番まで全部持っていますが、今ではイギリスは大切な友達ですから、この歌詞を歌うことはありません。

君が代についてももう少し言いますと、実は3種類あることをご存じでしょうか。若い方は知らないかもしれません。歌詞はすべて一緒ですが、君が代の曲は3つあります。最初の君が代は、明治時代にイギリス人が書いた讚美歌調の曲なのですが、歌詞に曲が全然合っておらず人気がありませんでした。

それから文部省が1つ作りしました。その当時の文部大臣森有礼が一生懸命、これを宣伝しましたので、しばらくの間は日本の国歌として使われましたが、その文部大臣が暗殺されてしまいました。その間に、宮内庁が作った今の君が代を使うようになりました。これがドイツの国歌コンクールで賞も取っていて、音楽的に非常に優れているものです。

ちなみに、私は六本木男性合唱団という団体に入っていますが、私たちは3通りの君が代を、皇太子殿下の前で合唱したことがあります。皇太子殿下は興味深そうなお顔で聴かれていました。

個人的には、君が代という曲は途中で終わるような気がします。「あれっ？」という感じがしませんか？ 皆さんは慣れているからしませんか。普通はラララー、ドンで終わりますが、君が代はそれとは違う。それも特徴的で面白いものですが、これからも日本はずっと続くという意味もあるのでしょうか。

日本という国の歴史を知ったときに日本人はどうなるかということ、日本人に生まれたことを誇りに思います。外国人は、日本は素晴らしいと憧れます。でも、未熟な国の国民は嫉妬するのです。どことは言いませんけれども、大体想像がつくでしょう。

逆に、日本という国の歴史や素晴らしさ、戦争の真実を教えなければ、日本人から誇りと自信を奪うことができます。これは戦後の日教組教育の戦略です。日教組に存在意義があるのでしょうか。日本国民に自虐史観を植え付けることが、自分たちの使命のような考え方を持っている教職員が多いです。

なぜそのようなことになったのかを知っていますか？ 若い人は知らないかもしれないのですが、GHQは占領政策の一つとして公職追放を行い、20万人以上の有能な日本人を、重要なポストから追放してしまいました。

この中には教育者が大量にいて、一番素晴らしい先生たちがクビになりました。そこに空白ができますから、誰が入るかということ共産党が入ります。共産党の活動はアメリカでは禁止なので、GHQが禁止してくれたらよかったのと思いますが、強い軍国主義の日本の対局として残したということでしょう。連合国にソ連が入っていたこともあり、共産党を禁止できず、おかしな思想を持つ連中が教育現場に入り込んでしまいました。

GHQは併せて教育改革をやりました。改革と称していますが、中身は破壊です。道徳教育である修身や、長い歴史の日本の伝統、武士道の精神を教えなくなりました。書道まで禁止されそうになりました。戦後に教育を受けた人たちは、誇るべき日本の姿を知りません。むしろ日本は悪い国だ、悪いことをした、ちっぽけな国、誰も憧れない、恥ずかしいという感じを皆さんは持っていると思います。

童話でいうと日本は「みにくいアヒルの子」のようです。GHQがそのような洗脳政策を実行しました。GHQとは何か分かりますか？ GHQとはマッカーサー元帥を最高司令官とする連合軍総司令部のことで、要するに



占領軍です。この人たちが行った占領政策に War Guilt Information Program, WGIP がありますので説明したいと思います。

占領軍は、日本人は生まれたばかりの子どもから間もなく死ぬおばあさんまで、全員の頭の中が軍国主義になっていると思っていたのです。アメリカの占領政策には、農地改革や労働組合の組織など、いろいろとありましたが、War Guilt Information Program の目的は、大きなお世話ですが、一番改革しなくてはならないのは日本人の頭の中だと思っていたわけです。

マスメディアと教育を通じて日本人を徹底的に洗脳して、武士道や滅私奉公の精神、皇室への誇り、そして、それらに支えられた道徳心、愛国心を徹底的に破壊して、日本人の精神の奴隷化を図るという、GHQ のマインドコントロール計画が、WGIP だったのです。

教育に関しては少し話しましたが、マスコミに関して詳しく説明しましょう。今の日本のマスコミはおかしいです。そう思っていなければ、あなたがおかしいです。マスコミの何がおかしいかという例を挙げましょう。今、沖縄で何が起きているかを知っていますか？ テレビや新聞では知り得ない情報なので、知っている人はインターネットを見ている人です。

ネットの情報で何が分かるのでしょうか。新聞で分かることは、大阪府警の機動隊の誰かが活動家に向かって土人と言ってしまったことくらいです。これが沖縄の人に対する侮辱だと言いますが、米軍基地に反対する活動家の大半は、全国から沖縄に集まったプロ市民であり、沖縄の人ではありません。

私も取材に行きましたが、掲げている横断幕は中核派、革マル派などで、日本国内のテロリスト組織です。それから、ハングル語や中国文字、英語の横断幕もあります。たまたま私が知っているオーストラリア人の女性もいました。あなたは何故ここに来ているのかと聞いたら、私は地球人だからですと言いました。宇宙人ではないからまだましだと思いますが。

沖縄で保守活動をされている我那覇真子さんは名護市の出身です。滑走路を拡張するキャンプ・シュワブはニュースなどで辺野古と呼ばれていますが

名護市内にあります。名護には独特な方言があるそうですが、デモ隊は全然それで話していないので地元の人ではなく、よそから来ている、いわゆるプロ市民だとすぐに分かるそうです。

この人たちは、朝、沖縄県庁の前に集まってバスに乗り、デモの現場まで運ばれて、1日中、デモを行います。夕方5時頃に終わって、バスに乗って戻ります。1回目の取材のときに私は5時10分ぐらいに辺野古に行きましたが、5時の定時で仕事が終わったバスとすれ違いました。バスで県庁まで運んでもらい、弁当や日当をもらいます。

『朝まで生テレビ』に出演したとき、「だって、あの人たちは日当をもらっているから」と言ってしまいました。私が半分、機密情報のような形で米軍関係者から聞いた情報だということを忘れてポロッと行ってしまったら、田原総一朗さんに「デモ隊は日当をもらっているんですか？ 幾らですか？」と言われました。

「2万円です」「どこからお金をもらっているのですか？」「それは中国共産党でしょう。もちろん間接的に沖縄のある企業を通して出しています。その企業の名前を知っていますが、テレビでは言いません。私の下の名前と同じイニシャルの会社です。そこを通して沖縄基金のようなものをつくり、そのお金を使っているのです」などと言ってしまいました。

話を遮るようにコマーシャルに入ったのですけれども、翌日は大問題になりました。何が問題になったのかといいますと、1万円しかもらっていない人たちが、「なぜ俺は1万円しかもらってないんだ！」と、大問題になってしまったのです（笑）

この写真で影になった線が見えると思いますが、これが境界線だと思ってください。あちら側が基地で、こちらは外です。デモ隊は幼稚なもので、ギリギリまで行って足を上げて、みんなで肩を組んで下に下ろさないでということをやります。そうすると、警備員が飛んで来るので引っ込めます。警備員が引っ込んだら、またこれの繰り返しで子どもの遊びのようです。これで日当と弁当をもらうのです。本当に暇な人たちですね。

沖縄本島の北にある北部訓練場は海兵隊用のジャングル訓練場です。広大な面積なので、日本はもちろん返還してほしいですし、アメリカも一部を返還したいのですが、その前に返還したい部分にあるヘリパッドをほかの場所に新設しなければなりません。ひどいのはプロ市民が広大な土地の中に入り込んで、工事の邪魔をするのは。米軍基地の中ですから不法侵入です。トラックが通る道をふさいで業務妨害をします。

テント村も作っています。沖縄の地元の人で、防衛省の沖縄防衛局に勤めている人たちが、テント村を撤去してもらいたいということで中に入り、通知書を貼ろうとしたら、連中に取り囲まれてしまいました。ものすごくたちが悪くて、どのようにするかというと、まずは顔写真を撮ります。

防衛局の人たちはそれを知っているので、帽子とサングラス、マスクをしています。ところが過激化したプロ市民たちは、これらを強制的にもぎ取ります。これは窃盗罪ですし、怪我をすれば傷害罪、しなくても暴行罪です。防衛局の職員を無理やり抑え込んで、座らせて説教をするなどの映像が全部インターネットに出ていますので、ご覧になってください。血圧が上がりますので、血圧が高い人は気を付けてください。本当に最後まで見ると、この国はどうしたのかと思いますよ。

そこに機動隊が来ていますが、なぜ大阪府警の機動隊がそこにいたのかを知っていますか？ 説明しましょう。沖縄県警がやればいいのですが、沖縄県警はできません。沖縄県警がやると、例えば、活動家とトラブルがあった場合にどうなるかという、あの県知事が、沖縄県警の機動隊員を擁護してくれると思いますか？

土人と言った大阪府警の人を、大阪府の松井知事はどうしましたか？ 一生懸命やっていると言って擁護し、支持してくれました。素晴らしい対応です。しかし、翁長知事は、沖縄県警は動かないほうがいいと思っています。もし県警の機動隊員が活動家とトラブルを起こしたら、一方的に処罰されるかも知れません。

県警がプロ市民に対して強い姿勢を示すと、彼らは警察官の写真を撮っ

て、その下に名前と家族の名前、住所、電話番号などの個人情報全部書いてフェンスに貼ります。これは脅迫罪、それから、公務執行妨害です。こういう犯罪が次々に起きているのです。

防衛局の人たちにも警察官と同じことをしようとしています。帽子などをもぎ取った動画を見たときには本当に腹が立ちました。帽子と眼鏡、マスクを取って抑え込んで、顔写真を撮れと関西弁で言っているのです。本当に暴力的です。そして、明らかに関西弁です。でも、テレビはまったく伝えていませんよね。

会場にいらっしゃるほとんどの方は、ネットで見ていない限り、今の話は初耳でしょう。小競り合いの中で土人と言っていました。それもまた面白い話があり、昨日か一昨日の沖縄タイムスが「土人という言葉を知っていますか？」と聞くと、ほとんどの人が知りません、意味が分かりません、聞いたことありませんと言います。

言った本人も差別発言をしたつもりはなく、聞いた側も差別として認識していなければ、差別は最初から成立していません。だけど、マスコミがそれを報じて「沖縄県民に対する差別だ！」と騒ぎ立てます。何度も言いますが、プロ市民は沖縄県民ではありません。

話がずいぶん飛んでしまいましたが、とにかくマスコミを利用して、GHQは日本人の頭の中を改造しようとしたという話に戻します。ここでのマスコミには、印刷媒体や舞台、音楽も全部入ります。もしコンサートを開きたいと思えば、その曲目と、演奏の間に話すコメントを全部台本にまとめて、GHQの許可をもらわないと開催できませんでした。要するに事前検閲です。映画も検閲の対象ですし、テレビはまだありませんでしたが、ラジオはもちろん対象です。

新聞などの報道については、プレスコードという報道禁止項目を示した上で、チェックを行うための検閲組織をわざわざ作りました。30項目ありますが一部紹介します。GHQを批判してはいけない、東京裁判、極東国際軍事裁判の批判も駄目です。褒めるのは構いません。褒める記事をGHQが用

意して新聞社に提供し、これを載せろと言いますから載せます。もし載せなければ処分されます。

GHQが日本国憲法を書いたという事実を報じてはいけません。だから現在に至るまで、日本国憲法をアメリカ人が書いたことを知らない日本人が結構います。でも先日、アメリカのバイデン副大統領がそれを言ってしまい、すっかりバレました。あの人はアメリカの麻生太郎と言われています。口を開けば失言が飛び出すのに、憎めないキャラクターなのです。

それから、検閲制度が存在することも言ってはいけません。そして、連合国ではない朝鮮もなぜか入っていますが、連合国や朝鮮人の批判を言ってはいけません。

満州における日本人の取り扱いについての批判を禁じたのは、連合国にソ連が入っているからでしょう。今日に至るまで、これについての徹底した研究を見たことがありません。また、連合国の戦前の政策に対する批判、つまり、アメリカが日本を戦争に追い込んだことを言ってはいけません。

そして、面白いと思ったのが「神国日本の宣伝」です。若い人は知らないかもしれませんが、東京五輪組織委員会会長の森喜朗さんは元首相です。この人が首相になったときに、日本は神の国だと言ってしまい、それに対して日本のマスコミは猛反発して、彼をガンガン批判しました。ささいなことで連日のように批判記事が新聞に載り、結局は総理大臣から引きずり下ろされました。マスコミは、偉い人を引きずり下ろすのが自分たちの仕事だと思っているようです。

禁止30項目の中にはいろいろとありますが、私が一番好きなのは「その他の宣伝」です。つまり、その日の検閲官の気分次第で、何でも禁止できるということです。その結果、日本のマスコミの中にすごく変な現象が起きました。戦争が終わるまでは、大本營の宣伝部だったことは認めましょう。それも確かに変なマスコミでした。

昭和20年9月に、朝日新聞が原爆投下についての批判的な記事を載せました。読者の声として、パターン死の行進を疑問視する内容も載せました。

そうすると、2日間の業務停止処分を食らいました。朝日新聞はそれまでは大本営のポチだったのに、翌日からは180度態度が変わりGHQのポチになってしまい、それがいつの間にか中国共産党のポチになって、今日に至っています。今度はどのようにしたら変わってもらえるのかを考えています。ネット上でガンガン批判しましたが効果がありませんでした。

近年はいい資料がたくさん出ています。私はこのような話をするときに陰謀論やうわさは大嫌いですから、必ず一次資料を確認します。新聞に関するWGIPに関しては、このような一次資料が出ています。最近まで機密扱いだったり、噂だけが先行して存在が確認されていなかったものですから、これを手に入れることができませんでした。しかし、今は見ることができます。

このWGIPの資料は機密扱いでしたが、このような新聞記事を日本の新聞に書かせましたというGHQ内部の報告書です。日本人に自虐史観を植え付ける本をGHQが英語で書いて日本語に直してもらい、そして10万部売れましたと書いてあります。これを読むと機嫌も気分も悪くなります。

NHKラジオに、人気の高い『真相はこうだ』という番組がありました。これもGHQのプロパガンダ部門であるCIEが台本を書きました。

南京大虐殺が初めて一般の日本人に紹介されたのは、このNHKのラジオ番組の中なのです。アメリカ人が作ったホラ話ですが、NHKが言うのだったらそうか、そのようなこともあったのだ、この国は駄目だ、何というひどい国だ、中国に申し訳ないという自虐史観がどんどん植え付けられたのです。これがGHQの目的です。映画もそうです。自虐史観を植え付けるこのような映画を作らせましたという報告書です。

おかげさまでどうなったかという、日本のメディアはこの体験を通じて、世論の誘導と形成に快感を覚えてしまいました。国民をだますことに罪悪感があったのか、なかったのかは分かりませんが、あったとしてもすぐに消えたのでしょうか。本当にGHQの操り人形であり、アメリカの手先ですが、世論の誘導と形成に快感を覚えました。

いまだにそれが役割だと勘違いしているマスコミは多いです。例を挙げましょう。例えば、沖縄に2つの地元新聞がありますが、百田尚樹さんが言ったとおり本当に駄目です。どちらか忘れましたが、ある時、記者がすごく変なことを書こうとしました。

ある人が、「でも、そのようなことを書いたら世論が許しますか？」と聞くと、「世論は俺たちがつくっているから大丈夫」と言いました。このような態度と傲慢（ごうまん）さが、私には許せません。

終戦から71年目の現在も、日本の多くのマスメディアは、自己検閲と恣意（しい）的な報道を続けています。ですから、中国については厳しく言わない。日本の新聞は産経新聞と夕刊フジを除くと、中国や韓国について批判的な記事を減多に掲載しません。でも、自民党や政府に対しては遠慮なく厳しく書きます。朝日新聞や毎日新聞は、自分たちの政治思想しか報道していません。系列のテレビ局の報道もひどいものです。

私は放送法順守を求める視聴者の会の一員ですが、この会を知っていますか？ 文芸評論家の小川榮太郎さん、経済評論家の上念司さん、作曲家のすぎやまこういちさん、イエローハットというカー用品店の創業者である鍵山秀三郎さんと、私の5人が呼びかけ人となって立ち上げた団体です。私たちはマスコミを監視しています。

数日前にマスコミに対して手紙を送っています。なぜ沖縄の基地反対運動をきちんと報道しないのだと。土人発言ばかり報道していますが、プロ市民がどれだけのひどいことをやっているのか、どうして報道しないのかと手紙を出しています。今日の私のFACABOOKを見ると、その話が上がっています。

東京裁判、そして、日本国憲法第9条、メディア統制、教育改革は全部、占領政策の中のWar Guilt Information Programの一環です。

では、憲法を見てみましょう。第9条です。日本国憲法第2章は戦争の放棄ですが9条の第2項を見てください。「前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない、国の交戦権はこれを認めない」となっ

ています。これはどのようなことでしょうか。

はっきり言っておかしい。このような憲法は世の中にありません。これは日本に対する制裁措置です。アメリカが日本を弱い国にしたかったということです。日本の平和を願ったわけではなく、強すぎた日本を骨抜きにする目的で米国人が書いた憲法です。

ところが、ある人は、いや、これは平和憲法です、第9条があったから今まで戦争は起きなかったと言います。頭が悪いです。第9条があったのに、竹島をなぜ韓国に盗られたのでしょうか。韓国から竹島戦争を仕掛けられ、これに負けたからです。60年以上前に「9条があるから平和」という論理は破綻しているのです。

今、尖閣諸島で何が起きているのでしょうか。沖縄のプロ市民をかき立てて、支援を出しているのは中国共産党です。なぜかという、中国は沖縄省をつくりたいからです。そんなときに、日本は軍隊を持つてはいけないというのは危なくて、おかしいし、まったく駄目な状態です。

だから、私は憲法9条を改正しなければ駄目だと、今、自民党に対してすごく強く言っています。他の改正は後でいいから、堂々と軍隊を持てるように9条だけを直しましょう。

安保法制のときに憲法学者が出てきました。国士館大学は違うかもしれませんが、日本にまともな憲法学者はほとんど存在しません。たまにいますけれども、皆無とさせていただいて結構です。

どのようなことか説明いたします。安保法制が審議されているときに、これは憲法違反だと著名な憲法学者たちが言いました。彼らはなぜ憲法違反だと言いましたか？ 憲法に陸海空軍を持つてはいけないと書いてあるからです。交戦権と自衛権はつながっているのですが、集団的自衛権と個別的自衛権を区別しているのは日本だけです。この憲法に何が書かれようとも、交戦権も自衛権もアメリカに放棄させられたということです。しかし、国際法で認められていますから、潜在的に存在しています。

とにかく憲法学者が出てきて、これは駄目です、憲法違反です、だって条



文にそう書いてあるではないですか。条文を普通に読めば、日本は軍隊を持ってはいけません。憲法学者たるものに言われなくても、それぐらいは分かります。私は5年間、日本語を教えていましたので、これぐらいの日本語は書けますし、読めますから、きちんと分かっています。私でさえそうだから、皆さんもそうでしょう。分からない人はGoogleで調べてください。

だから、この憲法では軍隊を持ってはいけません。だけど、自衛隊は現実にありますし、どう見ても軍隊でしょう。だから、条文を変えるのか、解釈を変えるのか、現実を変えるのか、どうすべきなのかを考えるのが本物の憲法学者なのですが、そのような本物は滅多にいません。条文に駄目と書いてあるから駄目と言っているだけで、幼稚園の先生のようにです。

文章で書いてありますと言いますが、その文章は誰がどのような意味で書いたか、現状に合っているのかは考えなければいけません。彼らは全然考えないで「六法全書に駄目と書いてあるから駄目です」と言う弁護士と一緒に、何の役にも立ちません。安保法を「違憲だ」と言った憲法学者は全員駄目だということは分かるでしょう。

それから、東京裁判の主な問題点を少し話したいと思います。これを話すようにと言われて今日は来たのに、余計なことばかり話してしまいました。そもそも日本に戦争を仕掛けたのはアメリカです。日本が大陸に出掛けて中国をやっつけていたからです。水掛け論になってしまいますが、地政学のことを説明いたしましょう。

なぜアメリカは第二次世界大戦にそんなに参戦したかったか。アメリカの国民は参戦したくないのですが、ルーズベルト大統領どうしても参戦したかったのです。アメリカは第一次世界大戦に参戦しました。そのとき日本も同盟国として勝ちましたが、アメリカ国民はこの戦争がすごく嫌でした。なぜかという、ヨーロッパの内紛をアメリカがわざわざ行って抑えないと駄目なのか、たくさんアメリカ人の若者が死にましたし、太平洋と大西洋が国の両側にあるのだから、ヨーロッパで戦争しなくても、アメリカは安全でしょうという訳です。

ところが、第一次世界大戦の間に、潜水艦と飛行機が出てきました。すると海は、敵と自分たちの間の緩衝地帯として使えなくなってしまいました。敵対する国との間には緩衝地帯が絶対必要なのに、もはや海は緩衝地帯になりません。

アメリカの東側を見てみましょう。第二次世界大戦が始まり、ドイツがヨーロッパを全部取ってしまったとします。海は計算に入らないので、アメリカは敵国ドイツと直接、接していることになります。しかもアフリカや中近東からアジアまでがヨーロッパの植民地だらけなので、ドイツはそこまで抑えます。アメリカはその当時、アフリカと中近東の資源にすごく頼っていたので、経済的にも大変な問題になります。

では、西側を見ると日本なのですが、満州からどうもアラスカにまで攻め入りそうな勢いでした。朝鮮、それから中国、戦争が始まる前まではインドシナにも入りました。日本は台湾も持っていましたから、そのままアメリカの植民地だったフィリピンまで行ってしまうと大変です。ですから、アメリカが大国としての覇権を握りたければドイツと日本の両方をつぶさなければいけません。

日本がドイツのナチスのように思われたのはイタリアも入れて三国同盟を結んだからです。日本はあの同盟を組まなくてもよかったという気がします。今日は戦争を反省する会ではないから、それはいいとしましょう。

ルーズベルト大統領は、ドイツや日本との戦争に絶対参戦しなければならぬと分かったのです。ところが、85%のアメリカ人は参戦大反対でしたから、そう簡単にはいきませんでした。ヒトラーに少し挑発をかけてみましたが乗りませんでした。

では、日本にということで、日本に対してとても飲めない条件を突き付けて、日本の経済封鎖と海上封鎖も行います。それまで日本は鉄くずや石油をアメリカからほとんど買っていましたが、完全にストップしてしまいました。

そうすると、日本がいずれ経済破綻することは分かります。静かに破綻し

てくれるはずもなく、きっと戦争をしてくだらうと予期できました。日本がアメリカを先制攻撃してくれば、アメリカの世論はあつという間に逆転するはずです。ルーズベルトは実際にそのような計画を立てました。

真珠湾攻撃のことを Sneak Attack や奇襲攻撃と言いますが、その何年も前から日本の暗号通信を全部、アメリカが傍受していました。傍受施設は環太平洋に22カ所ありましたし、暗号も解読していましたから、何を言っているのかも分かりました。戦争の直前にも駐米大使がアメリカと交渉をして東京に報告を送りますが、アメリカはそれを全部聞いていて裏事情を知っていたので交渉になりません。

連合艦隊が択捉島に集結して、そこから出掛けたことも全部キャッチしていました。人工衛星はまだありませんが、通信に使う周波数によって、どれぐらいの距離なのか計算できるので、艦隊の位置はだいたい分かります。日本軍も黙っていればいいのに、高校生がどうしてもガールフレンドに電話したいという感じで、どんどん本国と通信していました。3日前になって、やっと静かになりました。

第1発目を日本に打たせろという命令は出ていました。それが真珠湾攻撃でした。そこで約2,300人のアメリカ人が犠牲になっていますが、ルーズベルト大統領としては、安い代償だったと考えたようです。卑怯ですが、戦争とはそのようなものなのです。日本が先制攻撃しましたから、次の朝までにリメンバー・パールハーバーをスローガンにして、議会で演説したら、今度は85%が参戦に大賛成しました。

アメリカが日本をととも耐えられない経済状況に追い込んだという部分は、極東国際軍事裁判には全然出てきません。戦争の勝者が敗者を一方的に裁くのは不公平です。そう思いませんか？ 裁判官は第三者でないと駄目です。勝った人が負けた人の裁判をするのは、基本的に駄目だと思います。

無差別空襲や原爆投下などの連合国の犯罪は問われませんでした。本当の意味での戦争裁判をやるなら、中立的な第三者はスイスしかありません。スイス人にアメリカと日本の両方で何が悪かったのか裁判を頼めばよかったの

ですが、そうしませんでした。

なぜアメリカは原爆を落としたのか、原爆投下論を少し話しましょう。これは私の考え方です。ドイツが原爆を作ろうとしましたが、そこからアメリカに亡命したユダヤ人がいて、ルーズベルト大統領に会いに行きました。

ドイツが核兵器を造っているのに、アメリカは急いで核兵器を造らなければ戦争に勝てないと言いましたが、ルーズベルト大統領は聞く耳を持ちませんでした。その人は仕切り直して、次の日にまた行きました。もっと分かりやすく説明すると、ルーズベルト大統領はすぐに何かをしなければならないという結論を出し、その日から開発が始まりました。

最初はドイツとの競争でしたが、途中でソ連も開発競争に入りました。日本はだいぶ遅れていましたが、開発していました。でも、恐ろしいです。ドイツが原爆を先に持ってしまっていたらどうなったでしょうか。まずはロンドンに落とすでしょう。次はニューヨークもしくはワシントンに落とすでしょう。それが恐ろしいので、アメリカも造らざるを得ませんでした。

では、ソ連が先に開発できたとしましょう。ベルリンに落とすのではないのでしょうか。もしかしたら、その後にもう1発、日本にも落とすのではないのでしょうか。

たまたまアメリカが一番先に造ってしまったのです。そのときに戦争をしていた日本に落としました。なぜ広島に落とされたのか。そこにアメリカ人がいないと思ったからです。ところが、12人の捕虜がいました。みんな被ばくして亡くなりました。先般、オバマ大統領が来たときに、森重昭さんという人とハグをしましたが、森さんは広島にアメリカ人被ばく者の慰霊塔を作った方です。

それについてのドキュメンタリー映画も制作されています。インターネットで見られるか分かりませんが、私は持っています。広島テレビとアメリカの制作会社が協力して、森さんが被ばくしたアメリカ人の遺族を探し出して日本に連れてきて、歴史を教えてあげたという1時間のドキュメンタリー映

画を作りました。

2~3カ月前にアメリカ大使館の後援で、東京で上映されましたが、オバマ大統領はそれを絶対に見たと思います。オバマ大統領は森さんに何か言いましたが、恐らくお礼を言ったのでしょう。

広島に行く前に、オバマ大統領が岩国基地を視察して、素晴らしいスピーチをしたことは知っていますか？ これは報道されませんでした。なぜかという、スピーチの中で、日米安保条約は地域全体の平和のために素晴らしいものであり、日本の自衛隊とアメリカ軍と一緒に見事に協力してくれていることに感謝していると言いました。デイブレイクと言われる朝日新聞は、日米安保を誉めるようなことは書きたくないのです。

デイブレイクの意味はわかりますか？ 百田尚樹さんの『カエルの楽園』を読んでいない人は買って読んでください。これを読んでいないと、今の日本はわかりません。

では、なぜ原爆を落としたかといいますと、1つ目の理由は、人間だから作れば落とす。一度は使ってみたいのです。これが人間の愚かさです。たまたまそのときに、アメリカと日本はそのような立場でした。小さい子でも思うでしょう。やけどするからコンロに触るなどと言っても、試してみなければ1回は触るでしょう。それと同じです。

もう一つの理由は、実験したかったからです。ですから、ウラン型のリトルボーイと、プルトニウム型のファットマンを1個ずつ用意しました。広島は割合と平地が多いです。その前まで広島市は、一切空爆を受けていませんでした。原爆の破壊力をきちんと測るために無傷で残しておいたのです。

二発目のプルトニウム型は、北九州市に落とす予定だったのですが、曇っていました。帰り際に燃料が危ないところまできたら、長崎上空の雲が開けたので落として帰りました。長崎は山ですから、その地形でどのようなダメージになるか、いい実験になりました。

アメリカ国内で一番よく言われるのは、戦争の犠牲者数を最小限に抑えるためだったというものです。日本軍はなかなかグブアップしないですし、朝

日新聞などは「1億総玉砕」と言っていたのです。日本本土の上陸作成になると、双方に100万人ずつの死者が出る見込みなので、戦争を早く終わらせるために使ったほうが良いと、原爆を造る初期段階から考えていました。

多くの皆さんは勘違いしています。原爆投下の決断をしたのはトルーマン大統領だと思っているでしょう。これは間違いでルーズベルト大統領がすでに決めていたのです。トルーマン大統領は原爆の存在を、大統領になってから知りました。国策がそのようなことになっていたから、今さら使わないわけにはいきませんでした。

私はアメリカが原爆を落とした理由を言っているだけで、それがいい悪いという話ではありません。原爆投下は確実に民間人を巻き込む戦争犯罪でした。でも、原爆を落とさずに米軍が本土上陸作戦を執行した場合よりは、犠牲者の総数は少なかったと思います。

4番目の大きな理由があります。アメリカは世界一強い国であり、覚悟しなさいというソ連に対するメッセージです。ソ連の侵攻が北方領土で止まったのも、原爆投下の一つの効果だろうと私は考えています。今日はどんどん横道に入ってしまい、すみません。

いわゆるA級戦犯には事後法を提供したのは、法律的には駄目ですが、法律の進歩のために認めてもいいという人もいます。特に英米法では判決で法律が出来上がっていくのです。前例がなかった判決自体が法律になってしまいます。

でも、東京裁判では、ありもしない、最初からなかった、後で考えてつくった犯罪で裁いています。平和に対する犯罪です。しかし、平和とは何でしょうか。平和は何の意味にも使えるもので、最もよく使われているプロパガンダ用語です。

いわゆるA級戦犯は、一番罪が重い人たちだと思いがちですが、そうではなく種類を分けているだけです。BとCはもともとの戦争犯罪規定がありました。東京裁判は、あらゆる意味で裁判とは呼べない茶番劇です。さらに言うなら、東京裁判はアメリカ合衆国の建国以来、最大級の汚点と思って

いただいて結構です。

さて、茶番劇と呼ぶ理由は幾つかあります。国際法上、連合国には日本を裁く権限がありませんでした。権限がないのにやっちゃいましたが、ナチスドイツがなかったらやらなかったかもしれません。ナチスドイツと同様に考えてしまったのです。ドイツがやったことと日本がやったことはまったく違います。ナチスドイツは、ユダヤ人を完全に地球から消滅させる政策を実施して、600万人以上の大虐殺を行いました。日本は普通の戦争を真正面からやって、アメリカは反則で勝ちました。

日本は何をやったのでしょうか。万が一、韓国や中国のプロパガンダが真実だったとしても、慰安婦の強制連行20万人と南京大虐殺で30万人では、ナチスとは比較になりません。現実には、インドネシアなどで数十名の女性を強制的に慰安婦にしたケースがありましたが、その当事者たちは軍紀違反で処罰されています。現代まで続く民間の戦場売春婦がただで、官憲に雇われた従軍慰安婦や性奴隷など存在しません。

一人の慰安婦が1日20回も無理やり犯されたなどと韓国は言いますが、仮に20万人の慰安婦がいたとして、日本軍が150万人ですから、この計算でいくと全ての日本兵は1日6回、慰安婦とセックスをしないと計算が合いません。それに慰安所の利用は有料ですから日本兵は全員3日で給料がなくなります。あり得ない話を国連の人権委員会は認めています。あの人たちは頭が悪いですね。

東京裁判では、国際法に詳しい裁判官はインドのパール判事だけで、起訴された全員が無罪だと言いました。パール判事の判決書を見たことがありますか？ 肩が痛くなるほど重い、これがそうです。ある人が買ってくれました。私はいずれ読もうと思っていますが、重さと厚さを見ただけで、ほとんど箱から出したことがありません。今日は皆さんにこの判決書の厚さを見せるためだけに重いけど持ってきました。

弁護側が提出した証拠の大半が不採用になりました。前例のない裁判ですから証拠を採用する、しないという手続き上の明確なルールがなく、適当に

やりました。完全に不公平です。裁判中、被告人に有利な弁護人の論述が同時通訳されなかったり、速記録に残されなかったりしました。抗議しても「却下する」で終わりです。本当に勝手なやり方でした。

それから、検察側の証拠は宣誓がない供述を採用することもありました。中国語やモンゴル語などの証言の翻訳には疑問があります。ソ連とフランスから派遣された判事は英語も日本語も分かりませんから、判事席に座っているだけで何が何だか分かっていない。被告人を有罪にすることだけは最初から決まっていました。

もう一つ面白い本を読みました。これも読みにくい文章の本ですが、マッカーサーがどれぐらい裁判に関わったかという本です。皆さんもご存じだと思いますが、誰を裁判するのはマッカーサーが決めました。なぜでしょうか。部外者ですよ。裁判官が全部を決めればいいのに、マッカーサーが後ろにいるのです。

ほかに例えば、死刑判決を受けた人たちは、首つりではなく、銃殺を願いました。これを断ったのは裁判官ではなくマッカーサーです。なぜそのような権限があるのでしょうか。まず誰を起訴するかという段階で、なぜあの人たちなのでしょう。中には裁判をしなくてもいい人もいましたし、もっとひどい人もいくらでもいました。

さて、日本人の精神について、少し話をしてみましょう。日本のどこが好きですかとよく言われます。そのことについて本を何冊も出しているから買って読んでと本当は言いたいです。去年、アパホテルの代表が立ち上げた財団法人が主催する懸賞論文のコンテストがありました。皆さんもエントリーしてみるといいです。去年、私はエントリーしてグランプリを取りました。ありがとうございます。その中でこの問題を取り上げました。日本について私は何が一番好きかという、結局、日本人が好きなのです。日本人の国民性が日本でいちばん好きだということを書きました。

日本の国民性は何があるかという、潔さ、恥を知る、うそを吐かない、裏切らない、清潔好きなど、素晴らしいものばかりです。当てはまらない人



がいるのも知っています。でも、大半の日本人は素晴らしいですし、これが日本の伝統です。War Guilt Information Program は、これをできるだけ打ち消したかったようです。

日本人の常識を外交に使うと駄目なのは分かりますか？ 日本人は性善説を前提に行動しています。相手がいい人だと考えて接触します。ですから、ちょっと何かがあったときは、すぐにごめん、すみませんと言います。そうすると、相手は水に流してくれるのではないですか。しかし外交になると、相手は悪い人だと思って接触したほうがいいのです。

外交とは、言語や習慣、文化、価値観が全く異なる異民族同士の交渉です。例を挙げましょう。韓国人の国民性に、恨（はん）というものがあります。若い人は分かりますか？ 恨の思想は、精神病に正式に認定はされていませんが、常に誰かの文句を言っていないと気が済まない精神病みたいなものです。ですから、文句を言う対象が必要です。

日本は、戦時中はひどい目に遭わされた韓国人に言われるではないですか。20万人もの慰安婦を日本軍が強制連行したとか。「すみません」と河野洋平さんも、村山富市さんも言いましたし、もう60回くらい韓国に謝っています。韓国人や中国人の基本にある儒教的思想では、謝罪とは罪人であることを自分で認めることです。儒教国の罪人は奴隷と同じです。鳩山由紀夫元首相が韓国に行って土下座をしましたが、謝罪の意味が日本と韓国では全く違うということを理解していたと思えません。

外交に日本人同士にしか通じない価値観を持ち込むと危険なのです。国際社会は野蛮で、身勝手、自己中心的な連中の集まりです。ドゥテルテ大統領を見てごらんください。全くそのとおりでしょう。何を言っているのか、さっぱり分かりません。トランプ以下です。

トランプがアメリカの大統領になり、あの人がフィリピンの大統領だったら、南シナ海はどうなるのでしょうか。日本人はもっと警戒したほうがいいです。外国人は空気を読みませんし、自分たちの流儀を貫くものです。日本人の善良さや謙虚さ、奥ゆかしさは、見事なまでにあだとなります。

そこで質問です。日本は大国だと思いますか。大国だと思う人は手を挙げてください。今日はかなり多いですね。これは写真に撮りたいぐらいです。では、大国ではないと思う方は手を挙げてください。若いのに四十肩をやっている場合ではありませんよ。

でも、良かったです。国士舘大学ではこのような結果にならないと困りますね。数カ月前に、よみうりホールで軍事ジャーナリストの井上和彦氏と東海大学の金慶珠先生、山田吉彦先生と私の4人で、南シナ海についてのシンポジウムをやったときに、同じ質問をしました。そこに来ている人たちの15%は大国だと考えていて、50%は大国ではないと手を上げました。そして、残りの人は四十肩でしたが、舞台の上の私たちはびっくりしました。

どのような気持ちかといいますと、新婚さんいらっしゃいの桂文枝師匠が、とぼけた発言に対して椅子から転がり落ちるぐらいの感じです。その後4人で飲みに行って、なぜ日本人の皆さんは自分の国をすごいと思わないのか、これは大問題だと議論しました。どうしてかという、これはアメリカのWGIPが大成功を取めた結果だからです。

日本は大国です。よく見てください。GDPはアメリカ、中国に次いで第3位です。しかし、中国の経済統計は全く信用できませんから、もしかしたら現在も第2位かもしれません。ちなみに、ロシアのGDPは日本の3分の1です。

もう一つ見てみましょう。世界の三大通貨とは米ドル、ユーロ、日本円です。少し前は中国の人民元が目されましたが、このところまったく信用されません。習近平が嘘つきだとバレたからでしょう。

G7の人口を見てください。1位がアメリカ、2番が日本です。ドイツもフランスもイタリアもカナダも、みんな日本より少ないです。巨大なロシアでさえも、人口は日本の1.13倍です。日本は超大国なのです。

今度はG7の面積で見てください。確かに国土は狭いですが、それでも第4位、真ん中です。ロシアの面積は日本の45倍もあって、人口は同じくらいだけど、GDPは3分の1です。実は中国の面積が、アメリカより狭いと

いうのは驚きです。

さて、冒頭でも言いましたが、日本は戦争したことを反省するのではなく、戦後の米国依存を反省する時期に来たと思います。今、日本は完全にアメリカに依存しています。これは異常な状態です。

平和憲法と言いますがうそです。今の日本は本物の平和ではありません。国境がどこにあるか全然分かりませんし、北方領土は入るか入らないのか。竹島、尖閣諸島、沖ノ鳥島はどうか。ドンパチの戦争はしていませんが、国内秩序を乱す勢力はたくさんいます。沖縄のプロ市民だけでなく、公安監視対象の日本共産党が一番駄目でシロアリです。

それから、日弁連も本当に駄目です。共産党系の弁護士が日本を貶める活動を、ジュネーブの国連人権理事会にまで出かけてやっています。

日本人は、世界一の歴史を誇る大国の国民として、自信を持って、堂々と振舞っていただきたいです。それができない間は、GHQの洗脳の War Guilt Information Program に縛られているということです。

憲法第9条が一つの鍵です。この条文があるせいで日本は完全にアメリカの属国になっていますから、憲法第9条が改正されない限り戦後が終わりません。「平和憲法」と言っては駄目です。正確に言いましょう。「平和を願う憲法」です。誰に願うのか？ 中国や北朝鮮です。まともな人がやることではありません。他のネーミングとして、「米国属国憲法」はどうですか？ そう言われて、むかつかないあなたはどうかしています。「依存憲法」というのも言葉は正確ですが、誇れるものではありません。

これから日本は自国憲法、自立憲法を作る必要があると思いますので、まずは第9条を改正していただきたいと思います。今日の結論が出ましたが、GHQの洗脳の War Guilt Information Program がまだまだ強いですから、マスコミに対して私たちは戦います。憲法改正に関しては、皆さんぜひご協力ください。

でも、朝日新聞の世論調査では、半分以上の人たちが9条を改正してもいいと言っています。産経新聞だったら信じないかもしれませんが、天下の朝

日新聞が言うことですから間違いないはずです。ご清聴、ありがとうございます。

**篠原**：ありがとうございます。本当はこれから横道の話やたくさん細かい話もお伺いしたいところですが、時間の関係上、ここで一旦お話を終了させていただきます。本当にありがとうございました。

### 質疑応答

**篠原**：それでは私から会場の質問を紹介し、ギルバートさんからお答えを頂くことに致します。

最初の質問です。戦後7年間のアメリカ GHQ による間接統治が解除されたのに、なぜ朝日新聞は今日に至るまで、活動を含めて日本人をおとしめる記事を書き続けているのでしょうか、です。

**ギルバート**：私も知りたいです。でも、私が思うには、国民の世論を形成して誘導する気持ち良さが忘れられないということです。今となっては、彼らは議論ができなくなっています。7年間もそのようなことをやってしまったので、その間は議論が許されませんし、言論の自由もありませんでした。

われわれは視聴者の会をやっていますが、TBS の岸井成格さんに対して、あなたたちは放送法を守っていますか、守っていませんかという公開質問状を出しました。もちろん局の中では激震が走ったようですが、真面目に答えるどころか完全に無視しています。

国会で高市総務大臣が、繰り返し放送法を破るのだったら、免許を取り消すこともありますと言いましたし、6人のジャーナリストが出てきて、私たちは怒っていますという横断幕を持って記者会見を行いました。Twitter ではそのときの写真を元にして、「私たちは狂っています」、「私たちは終わっています」などとネットの住人から 1,000 回ぐらい揶揄されました。

私たちはNHKで公開討論会をやってみませんかと提案しましたが、彼らは逃げ回りました。結局、小川さんと田原総一朗さんが『月刊 Hanada』と

いう雑誌の対談をやっただけです。しかし、田原さんは論点をずらしてばかりで、まともな議論ができません。ジャーナリストを自称しながら、思考パターンは全体主義ですから、議論をする必要がないと思っているのです。

自分たちが考えていることが絶対に正しい、国民が同じように思わなければ、彼らはバカです。以上終わり！ という考えなのです。この体制を変えなければ駄目です。日曜日の朝のTBSサンデーモーニングも、スポーツ以外はそのような態度でしょう。

**篠原：**どうもありがとうございました。

**ギルバート：**私は10年間レギュラーをやっていたから、あの番組の悪口を言っただけではありませんね。私がやっていたときは真正面から議論をしていたので嫌われました。

**篠原：**では、次の質問です。特派員協会の外国人ジャーナリストの9割方が、意見が違っているのはなぜでしょうか、です。

**ギルバート：**その人たちは、なぜ日本にいますか。はっきり言って一流ジャーナリストではありません。戦後の体制に加担している人もいますし、勉強をしていない人もいます。ジャパントゥデイという英字新聞がありますが、名前が間違っていて、内容的にはアンチジャパントゥデイです。

その中で書いている人は本当におかしい人ばかりです。そんな人たちが日本に住んで、日本の情報を世界に発信しているのです。特派員協会にいるジャーナリストのほとんどが三流以下です。

彼らは安泰してしまっていて勉強不足で、今までそのようなメッセージを送ってきたから、そのままいいと思っているのです。ジャーナリストとして、くずであることが結論です。

**篠原：**ありがとうございました。次のご質問の1つ目は、学校の卒業式に君が代を歌わないことをどのように思いますか、です。

**ギルバート：**おかしいです。ましてや、国立大学がそれをやっていないのはおかしいです。どうしてやらないのかは今日話しました。これが公職追放と共産党を残した負の遺産です。私が為政者だったらそんな国立大学に対して

交付金は出しません。

それだけではありません。大学のことをいうなら、最近、早稲田大学の中にできた孔子学院は全く中国共産党の手先です。日本の教育機関はどうしたのでしょうか。

**篠原：**そして2つ目ですが、憲法9条の対立は、どのようなお考えをお持ちですか。方法を間違うと、戦争が再開するかもしれませんという質問です。

**ギルバート：**そのようなことを誰が書いたのですか。憲法第9条を改正しなければ、戦争になります。沖縄に行ってください。戦争になりつつあります。そのときはアメリカが巻き込まれます。

憲法を改正すれば、日本がアメリカの戦争に巻き込まれると言う人がいますが、どちらが巻き込まれるのですか。このままいけば、アメリカが日本のための戦争に巻き込まれます。戦争の抑止力のために憲法9条を改正するのです。他にとぼけたのはありますか。

**篠原：**では、次の質問です。アメリカ人の戦争観について、昔からヨーロッパにおける戦争では勝敗が決まったなら、いわばノーサイドとなったものですけれども、なぜアメリカ人は相手を戦後も徹底的に破壊しなければ気が済まないのでしょうか、です。

**ギルバート：**2つの理由があります。1つはナチスドイツがあのようなものだったからです。なぜか日本も頭の中でつながってしまいました。もう一つは、日本がアメリカの領土を攻撃したことです。これは珍しいことです。ですから、外国で起きた戦争についてはノーサイドでいいのですけれども、自分の国が攻撃されたことは許せないということです。

基本的にアメリカ人は戦争が嫌いです。勘違いしないでください。ですから、第一次世界大戦は本当にやりたくありませんでした。だけど、例えば、スパニッシュ・アメリカン戦争があり、キューバを取りました。これは事故のようなものですが、メキシコと戦争をしたときは、確かにアメリカは領土を取りにいきました。

ですから、アメリカのサウスウエスト辺りのユタ、ネバダ、カリフォルニ

ア、アリゾナ、メキシコ、コロラド、マイアミの一部は、戦争で取ってしまいました。その下に鉄道を造ろうと思ったときに、少しメキシコに入ってしまった、この分を売ってほしいと言って購入したこともあります。必ず戦争をやるわけではありません。

アメリカ国民は基本的には戦争が嫌いです。なぜかといいますと人が死ぬから、人を殺すから、そして、お金がかかるからです。第一次イラク戦争もやってほしくありませんでしたけれども、仕方ありませんでした。

2番目のイラク戦争は明らかな間違いだと私は思います。戦争はやってもいいことはありません。でも、やむを得ないときもあることをアメリカは認めました。戦争をやらなければいけないときがありますが、なるべくやらないほうがいいです。第一次湾岸戦争は、ほとんどの人たちが正当な戦争だと思っています。あのときは、やり方も正しかったのです。行ってバツとやって引き上げて終わり。アメリカの人たちはほとんど死んでいません。要するに、終わりが見えない戦争を最初から始めないほうがいいのです。

オバマ大統領が、最近、アメリカは世界の警察ができないと言ったと、皆さんは思っているでしょうけれども、そうは言っていません。アメリカだけが世界中の警察をやっている時代ではなくなったという意味で言っています。つまり、皆さんも協力してください、アメリカだけに依存しないでくださいという意味です。勘違いしないでください。

もう一つは、靖国神社に安倍さんが2013年に参拝しましたが、マスコミがアメリカの反応は失望したと言いましたけれども、失望はしていません。がっかりしているだけです。翻訳がきちんとできない人はどこかに行ってください。失望しているのではなく、がっかりしているのです。要するに、安倍政権に失望しているのではなく、せっかく中国と韓国と仲良くなりそうだったのに行ってしまったから残念という意味です。

**篠原**：次の質問です。マスコミが報道しない事実はたくさんあると思います。では、どのようにすれば正しい情報を入手できるのでしょうか。ケントさんが日常で行っている情報収集の方法で、もし、ポイントがあったら教え

てください、です。

ギルバート：ニュースソースを増やすしかありません。日本の従来のマスコミは、ほとんど共同通信が書いた左寄りのものを垂れ流しているだけです。独立したニュースソースを複数持つことです。インターネットを使えば簡単です。同じニュースについて事実関係が同じでも見方がいろいろありますが、日本のメディアは1つしか見せようとしません。財閥を解体したつもりだったのが、解体していないではありませんか。マスコミは大きな財閥です。

ラジオ、テレビ、BS・CS、新聞、雑誌が最近ではウェブサイトまで作って、テレビ局はNHKも入れて系列が6つしかありません。そこに何を流しているかといいますと、共同通信の情報を流しているだけです。

例えば、私が水曜日の朝8時から10時までやっている『真相深入り！ 虎ノ門ニュース』を見たらどうですか。そこで私と井上和彦さんが別の視点で同じニュースを解説します。それから、われわれが嫌だと思ったら、月曜日の青山繁晴さんや、火曜日の百田尚樹さんを見ればいいです。

CNNはクリントンネットワークニュースですから真面目に見ては駄目です。洗脳されます。英語になりますが、FOXニュースなども全部、YouTubeで見ることができます。ニュースソースがこれからどんどん増えると思います。

先日、新聞に統計が出ていましたが、朝刊を読む人とニュースをネットで読む人がほとんど同じ数字になってきました。18歳が投票するようになりましたが、先日の参議院選挙で、もしかしたら若者がリベラルに走るのではないかと思いました。ところが若者は、自民党に四十数%入れているのに対して、民進党への投票率は20%いっていません。どうしてでしょうか。若者は朝日新聞を読まずに、もっとまともなニュースソースを見ているからです。

情報源を増やすのが一番大事だと思います。この体制を続けているのは、テレビ局が自分で自分の首を絞めていると私は思います。読売テレビがやっ



ている『そこまで言って委員会 NP』という番組をご存じですか。元々は亡くなったやしきたかじんさんの番組で、彼は日本テレビとけんかをしたので、東京では放送されません。

日本テレビはある意味では変わっているところなので、放送したくないかもしれませんし、彼は放送させないと遺言に残したか何かして、とにかく今は娘さんが権利を持っていますけれども、彼女も許さないということです。他の全国では流れています。とても面白い番組です。日曜日の午後1時半から3時までで、翌日には読売テレビの公式サイトにアップされるので、ぜひ見てください。

情報のソースの見極めは、重要です。複数のソースを見たほうがいいです。うちの女房はFOX ニュースしか見ないから駄目です。頭の中にはトランプしかいません。実は投票用紙に候補者の名前が出ているのですが、トランプとクリントンだけではありません。私はまだ送っていませんが、投票用紙が手元に来ています。メールで送るので火曜日に送っても間に合います。

実はまだ迷っています。マクマリンという候補がいるのですが、これはどうだと、うちの女房と3人の息子にメールで送ったら、女房が「何を言っているんですか、あなたは頭がどうかしましたか？ これを期に私は投票してきます、ハロウィンにちょうどいいと言って、ハロウィンの日にトランプに投票してきました。

うちの長男までが「あの人は絶対に駄目だ。トランプにしないと駄目だ。ヒラリーはひどい」と言い、次男は「何を言っているのだ、トランプはどのようになるか分からないでしょう、ヒラリーのほうがまだましだよ」などと、家族の中でガンガンやっています。でも、女房はFOX ニュースしか見ませんからトランプですけれども、私は迷っています。

世論調査は上がっているようすけれども、2,000万人が既に投票は終わっていますからどのようになるのでしょうか。今回は最後まで分かりません。

篠原：ありがとうございます。

ギルバート：投開票日は日本時間だと 11 月 9 日の水曜日です。その日は午前中からフジテレビの選挙特番に出て、その後は NHK ラジオで午後 4 時からの選挙特番に出演します。そして夜は日本テレビの『深層 NEWS』に出ます。『真相深入り！ 虎ノ門ニュース』はその日の朝です。まだ開票が始まっているかどうかの時間帯です。

篠原：ありがとうございます。最後の質問にさせていただきます。ビル・オライリーという人が書いた南京事件をご存じでしたら、コメントをお願いします、です。

ギルバート：知っています。ビル・オライリーは、アメリカが日本に対してどのように勝ったかという「キリング・ザ・ライジングサン」という本を書いています。これは最悪です。あの中に慰安婦 20 万人、南京大虐殺 30 万人と書いています。つい先日まで 20 万人だったのに、いつの間にか 30 万人になっている、それ以外には天皇陛下がどうだったなどの間違いをたくさん書いています。

FOX ニュースのビル・オライリーという司会者の番組を、女房が教会に行くよりもよく見えています。彼を神様のように思っています。結婚記念日に彼女はその本を私に贈りました。読んでみたら、あまりにひどい内容だったものだから、あんな女房と結婚しない方がよかったという気持ちになりそうでした。うちの女房は事実関係を勉強していませんから何も知りません。慰安婦とは何ですかと私にたずねる程度ですが、あの本は本当に駄目です。それでどうしようかと思ひ、最近はずごく忙しくて何もできませんでしたが、櫻井よしこさんと一緒になって、できればワシントンタイムズに出してもらうために、公開質問状を送ってやろうかと思ひます。

なぜ、そんなでたらめを今どき書いているのでしょうか。ワシントンポストもニューヨークタイムズも 20 万人の性奴隷とは使いません。それは間違いだと認めていますから、今更あのようなことを書いて CNN 以下です。

篠原：今日は残念ながら時間の制約もありますので、以上で質問を終わらせていただきます。

ギルバート：ありがとうございました。

篠原：今日は、ご講演いただき、どうもありがとうございました。沢山の皆様には長時間にわたりご参加いただきまして、ありがとうございました。